

地域の危険度マップ

高山東部地域

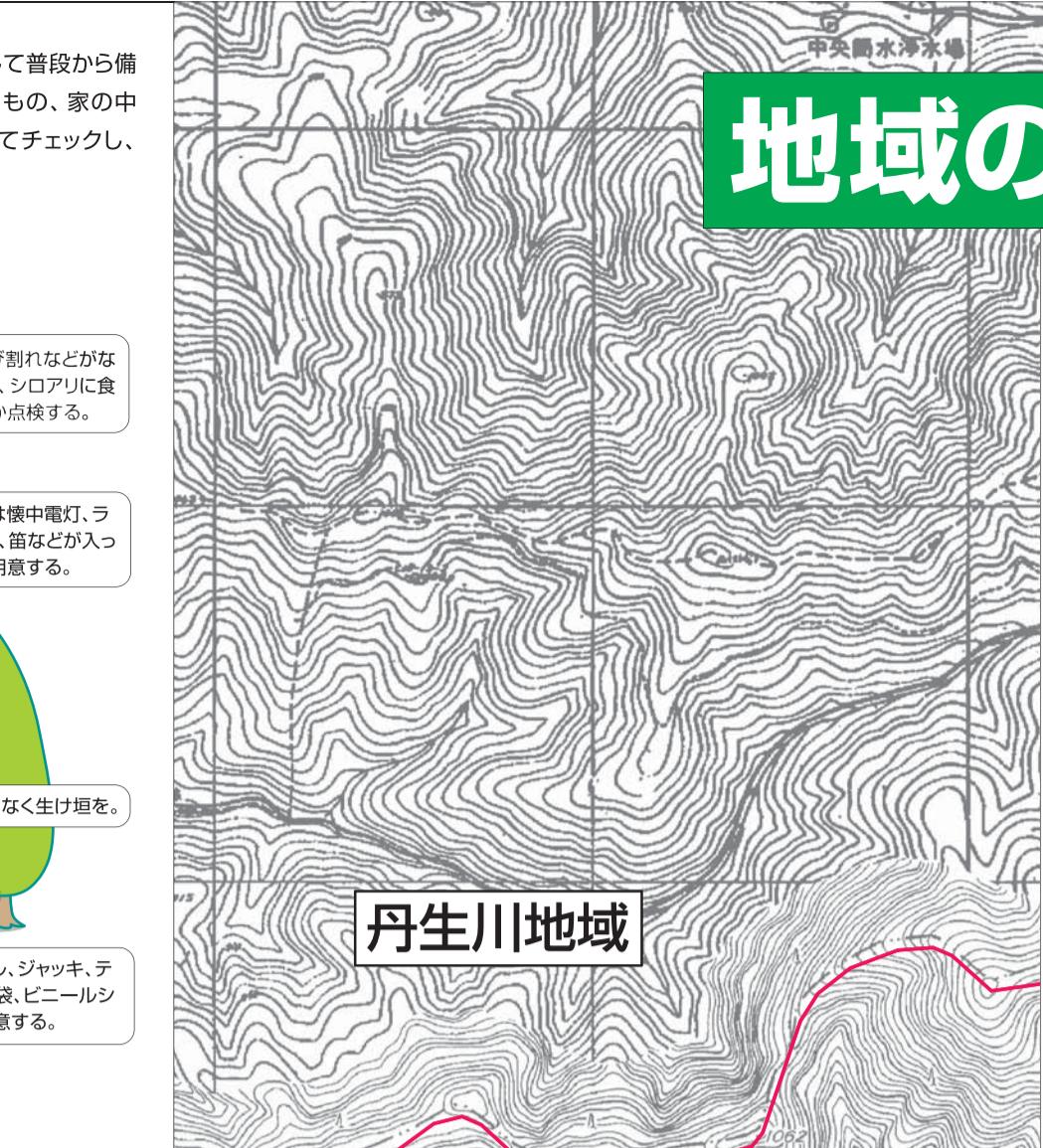
危険度マップ・全壊率 凡例

危険度1	0%以上～3%未満
危険度2	3%以上～5%未満
危険度3	5%以上～7%未満
危険度4	7%以上～10%未満
危険度5	10%以上～20%未満
危険度6	20%以上～30%未満
危険度7	30%以上

「危険度マップ」の見方

「危険度マップ」とは、裏面の「揺れやすさマップ」で示した強さの地震が起きたとき、建物の被害予想を「危険度」として表示したものです。地図上には、建物が存在するメッシュ(約50m四方)についてのみ着色しています。

丹生川地域



家の内外の地震対策を進めましょう

地震対策は皆さん一人ひとりあるいは家族が協力して普段から備えておく必要があります。建物やそのまわりにあるもの、家の中の家具やガラスなど、地震に対する安全性についてチェックし、補強や配置換などを行っておきましょう。

アンテナはしつかり固定しておく。

屋根瓦やタンク屋根を点検し、危険なものは固定するか、専門業者に依頼して修理・交換する。

柱・梁、土台を補強する。

ベランダを整理整頓し、落する恐れのある植木鉢などは取り除いておく。

壁や基礎にひび割れなどがないか、腐ったり、シロアリに食われていないか点検する。

窓などのガラスには、飛散防止フィルムを全面に貼る。

カーテンは防炎加工のものにする。

非常持ち出し袋を常備する。

ガラスの破片によるけがを防止するため、スリッパなどの室内履きを身近に用意しておく。

転倒の危険性がある場合は、型金具や支え棒で固定する。

ブロック塀でなく生け垣を。

車には、バーナー、ジャッキ、テント、毛布、寝袋、ビニールシートなどを用意する。

車元には機中電灯、ラジオ、乾電池などが入った袋を用意する。

常時水を貯めておく。

火元に消火器を設置。

基礎を補強する。

ガラス飛散防止フィルムを貼る。

扉に留め具をつける。

●大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置くようにする。

●玄関や廊下には家具や荷物を置かない。

●高齢者や子どもいる部屋や寝室には、倒れやすい家具は置かない。

非常持ち出し品を用意しましょう

●被災地に救援物資が届くまでには3日かかるといわれています。持ち出し品はこの3日間に必要なものを厳選しておきましょう。

一次持ち出し品(例)

一次持ち出し品は大地震が発生して避難するとき、まず最初に持ち出すべきものです。

非常食

パン、干し芋、缶詰など火を通さなくて食べられるもの、缶切り、栓抜きを忘れない。

貴重品

現金(10万円があると公用電話利用に便利)、預金通帳、印鑑、免許証、保険証、権利書など

救急医薬品・常備薬

はんそくごく、偏頭痛薬、胃腸薬、持病のある人は常備薬など

燃料

卓上コンロや固体燃料

携帯ラジオ

AM/FM両方聞けるものを、予備電池も

その他

ティッシュ、靴下、ロープ、マッチ、洗面用具、生理用品など

その他

できれば1人1つ、予備電池も

その他

粉ミルクやほほ乳、離乳食、紙おむつなど

●お年寄りいる場合

予備のメガネ、入れ歯、補聴器、大人用おむつなど

●家庭構成など必要に応じて準備しましょう。乳幼児やお年よりなどで特に必要なものがあれば追加しておきましょう。

●非常持ち出し品は定期的に点検し、保存状態や使用期限などをチェックして、必要に応じて新しいものに交換しましょう。

二次持ち出し品(例)

大災害時に組織的・救援・復旧活動が軌道に乗るまで、最低3日間は自分でできるようにしておきましょう。

飲料水

1人1日3リットルを目安。ボリタンクなどに保存しておく。

食糧

米や醸造酒など理で食べられる食品

その他

●赤ちゃんいる場合

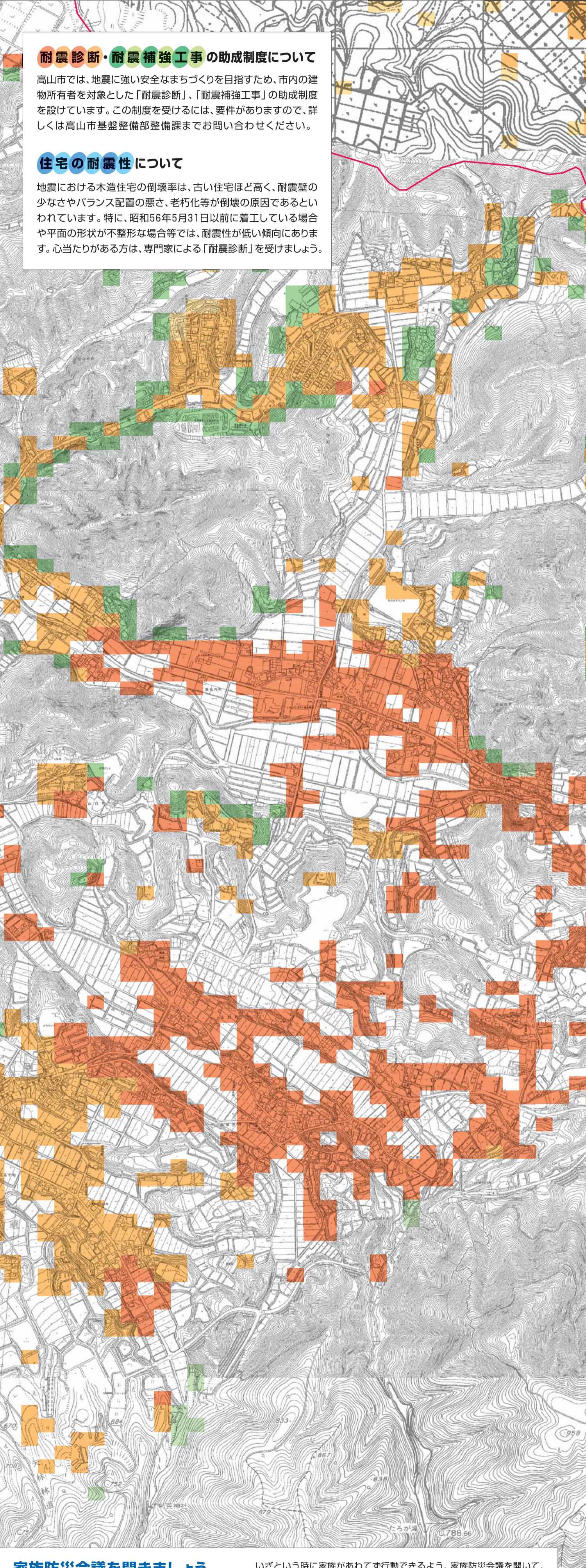
赤ちゃんがいる場合は、おむつを用意する。

●お年寄りいる場合

予備のメガネ、入れ歯、補聴器、大人用おむつなど

●お年寄りいる場合

予備のメガネ、入れ歯、補聴器、大人用おむつなど



家族防災会議を開きましょう



家族一人ひとりの役割を決める



災害弱者の支援方法を決めておく



非常持ち出し品の準備とチェック



地震発生時の連絡方法を決めておく



避難場所と避難ルートの確認をする

朝日地域

